

映画を用いた大学英語授業

－語用論的な力の育成をめざした事例の検討－

教育内容開発コース ショルティ沙織
総合文化研究科 榎木 貴之

English Lessons in a University Using a Movie:
A Case Study for Developing Students' Pragmatic Ability

Saori SCHULTE, Takayuki MASAKI

The present study illustrates how an English movie can be utilized to improve students' pragmatic ability of the English language in an English classroom in a university, and how students reacted to them. The teaching materials were used in four experimental lessons, which were designed based on the two aspects of students' pragmatic ability such as pragmatic knowledge and pragmatic performance. Through analyzing their comments on questionnaire surveys and worksheets, we examined how an English movie is effective as a teaching material for improving students' pragmatic ability. The results showed that students who stated that they worked on the activities using their knowledge they got from the imagery and the sounds of the movie wrote the correct answers on the worksheets which require understanding the context of the script. The results also proved that combining the two aspects of pragmatic ability mentioned above to create worksheets is helpful to improve students' pragmatic ability to a limited extend.

目次

1. 研究の背景
 2. 研究の目的と方法
 3. 実践の内容
 - 3.1 対象
 - 3.2 年間シラバス上の位置づけ
 - 3.3 使用する映画
 - 3.4 指導目標
 - 3.5 授業展開
 - 3.6 教材の構成
 - 3.7 活動の詳細
 4. 分析
 - 4.1 方法
 - 4.2 アンケートの記述
 - 4.3 解答用紙の記述
 5. 考察
 6. おわりに
-
1. 研究の背景

今日、大学英語教育の役割の一つは高校までの学習を土台に、さらに英語運用能力を高めることにある。

とくにある程度の単語・文法・発音等の知識を持った学習者について重要になってくるのは、個々の発話がどのような文脈の中でなされているものかを踏まえ、話者がそれにいかなる意図をこめたのかを把握する能力である。例えば、相手が皮肉をこめた発言をしているのにそれを文字通りに受け取ってしまったとしたら、コミュニケーションに重大な支障をきたすこともありうる。話者の意図を正確に把握することは母語でも容易ではないことがあるが、外国語においても、相手の意図を把握する能力の育成は重要な課題である。

言語学において、発話が個々の場面でどのような意味を持つかについて研究する分野は語用論 (pragmatics) と呼ばれ、例えば、Geoffrey N. Leechは、語用論を「具体的な場面において発話が如何にして意味を持つのかということの研究」(池上訳 1987: xi) と定義している¹⁾。外国語教育研究ではこの分野を背景とし、発話が各場面でのどのような意味を持つのかについて理解し、表現を行う能力を「語用論的能力」や「語用論的な力」などと呼ぶことがある。

このような能力を育成する上で、有効だと考えられる教材の一つが英語映画である。現実の発話と同様に、登場人物たちは前後の文脈の中で発話を行い、語

調や表情等によって多様なニュアンスを込める。スクリプトを英語教材として配布したとき、学習者はその文字情報を活用できるが、同時に、その前後に視聴した映画の音声や映像を助けとすることが可能である。つまり、文脈を把握する上で、文字情報以外に、音声と映像の情報をも活用できることが英語映画を教材化した際の大きな特徴である。

先行研究を概観したときに、代表的文献として挙げられるのは石原・コーエン (2015) である。同書は「社会文化的規範についての知識や理解、そうしたものを応用し、他者とのコミュニケーションにおいて運用できる能力」(石原・コーエン 2015: 2) を「語用論的能力」と呼び、「語用論的能力があるということは、言われたり書かれたりする文字どおりの意味を超えて、話し手や書き手の意図する意味、想定、目的、さまざまな言動などを理解できることを意味する」(石原・コーエン 2015: 3) と説明している。この「語用論的能力」を育成するため、石原・コーエン (2015) は教材例を複数提示しているが、映画を用いた例は含まれていない。

一方、映画を用いて、話し手の意図を読み取るための指導法について示したのが馬本 (1995) である。馬本は「言葉の使われる状況や話者の心理、顔や声の表情などによって、その伝えうる『意図』は言語形式の辞書的意味とは異なる場合があり、ときには全く逆の意味を伝えるのである」(馬本 1995: 186) と述べた上で、映画から辞書的意味と話者の意図が異なる例を取りあげ、その指導法について検討している。

川崎・榎木 (2016) は石原・コーエン (2015) と馬本 (1995) を踏まえつつ、「1. 具体的な場面において英語の発話がどのような意味を持つのかを理解する能力、2. 具体的な場面において英語の発話がどのような意味を持つのかを踏まえ英語で表現する能力」(川崎・榎木 2016: 395-396) の二つを「語用論的能力」と呼び、その力を育成するために映画を用いた授業を構想した。この論文の意義は英語映画を用いた授業例を具体的に提示し、かつそれに対する学習者の反応を詳細に記述した点にあったと言えるが、「語用論的能力」を育成するための映画教材はまだ少なく、その研究も不十分であるというのが現在の状況である。

2. 研究の目的と方法

以上の状況を踏まえ、本論文の目的は大学英語授業において映画を用いて「語用論的能力」を育成することを意図した教材を複数提示し、かつそれに対する学

習者の反応を記述・分析することである。このことを通して、映画が「語用論的能力」の育成に資することを示したい。その際、川崎・榎木 (2016) が挙げた課題を踏まえることにする。それは「語用論的能力」の育成をめざし、「理解」と「表現」の両方の活動を取り入れるという点である。川崎・榎木 (2016) は「語用論的能力」のうち、「1. 具体的な場面において英語の発話がどのような意味を持つのかを理解する能力」に焦点を当て、「2. 具体的な場面において英語の発話がどのような意味を持つのかを踏まえ英語で表現する能力」については活動例を示していなかった。実践ではこのことを念頭に「理解」と「表現」の両方の活動を取り入れた。

本論文で扱う活動についてあらかじめ述べておきたいことがある。まず「理解」に関する活動では、上で馬本が述べていたような辞書的意味と意図とが逆になるような発話は扱わず、両者の開きが小さいものとした。その理由として大きいのは、扱った映画でそのような例をほとんど発見できなかったためであるが、もう一つは年間シラバスの半ばにある実践であったことから、段階を踏んでいきたいと考えたためである。また、「表現」に関する活動では、実践の対象となる学生が自由英作文を苦手としていることがそれまでの授業でわかっていたため、今回は表現を補充する形式の設問にとどめ、将来的にまとまった量の発話を課す際の一段階とすることにした。

実践に際しては、まず授業者 (本章の執筆者) と共著者が協力して授業案、ワークシート、アンケートを作成した。その上で実践当日、授業者は授業案にしたがって授業を行い、実践後は共著者とともにワークシートとアンケートを分析し、記述を行った。

3. 実践の内容

3.1 対象

本実践の対象は、首都圏私立大学建築学科1年生39名、電気工学科1年生36名の2クラス計75名 (履修登録者数) である。講座名は1年生を対象とした必修教養科目「A英語2」で、この講座はリーディングを中心に総合的な英語力を養成することを目的とした通年科目となっている。研究の対象とするのは2016年6月30日、7月7日、14日、21日の4回 (各90分) に渡って行われた授業で、この授業を履修する学生の多くは基本的な単語・文法・発音等の知識がある。高等学校で英語学習に一定の時間を割いたことがうかがえる。

3.2 年間シラバス上の位置づけ

上記の必修教養科目「A英語2」では、各授業担当者がそれぞれ授業目標を定め、それに合わせて使用教材を決定している。本実践の授業者（本章の執筆者）は以下のような年間目標を設定した。

【年間目標】

- ①単語の意味、文の構造を踏まえ、英文を理解することができる。
- ②理解した内容を適切な日本語で表現することができる。
- ③内容（何が書いてあるか）だけでなく、表現方法（どう書いてあるか）について説明できる。
- ④自身で基礎的な英語表現を行うことができる。

本授業の大きな特徴は③である。第1章で大学英语授業は高等学校までの「英語」の学習を土台にしていくと述べたが、③はさらに高等学校までの「国語」の学習との連続性を考慮に入れたものである。授業者は大学で英語を教える一方、高等学校では「国語」を教えているが、現行学習指導要領における「国語」の特徴の一つは、多様な種類の文章が扱われている点である。『高等学校学習指導要領』（2009）を参照すると、例えば「現代文A」の項には「近代以降の様々な文章」を扱うことが明記されており（文部科学省 2009: 28）、その解説には「言語文化として価値が高く、現代の文化や思想に深くかかわるような文章はもちろん、現代の社会生活で必要となる実用的な文章や、翻訳の文章、近代以降の文語文及び演劇や映画の作品なども含めて考えることが大切である」と記されている（文部科学省 2010a: 49）。これは多様なジャンルの文章を扱うことで、文章の内容だけでなく表現方法に着目させることを目指したものである。

本授業ではこのような高等学校の「国語」のあり方と連続性を持たせることで、表現方法に対して敏感な感覚を持った学生を育てたいと考えた。そこで市販の英語教科書は指定せず、様々なジャンルの英文を集めた独自の教材を作成することにした。以下に示したのは英文の種類を基準とした「ジャンル別シラバス」である。

【年間授業計画】

〈前期〉

- 第1回：ガイダンス
第2回～第5回：映画

- 第6回～第8回：レクチャー
第9回～第10回：スピーチ
第11回～第14回：映画（本実践）
第15回：まとめ
〈後期〉
第1回：エッセイ
第2回～第3回：絵本
第4回～第6回：レクチャー
第7回～第10回：映画
第11回：洋楽
第12回：小説
第13回～第14回：スピーチ
第15回：まとめ

上記のもの以外にも英文には様々なジャンルがあるが、ここで扱っているのは、以前から同じ大学で英語授業を行なう中で、学生から支持を受けてきた題材である。英文を選ぶ際はその対象や文体などの点で、それぞれ異なった特徴を有しているよう配慮した。例えば、本授業で扱うレクチャーはアメリカの大学生に向けてなされたもので、ある程度の専門性がありながらも、わかりやすい英語が用いられている。スピーチは一般聴衆に向けて行なわれたもので、内容自体は平易であるが印象的な表現が随所に見られる。エッセイは日本の大学生向けの英語教科書から取ったもので、論理構成のしっかりとした文章となっている。絵本は欧米の子ども向けのものであるが、内容自体は様々な解釈が可能である。洋楽はメロディを伴っている点で他のジャンルとは異なり、リズムに配慮する形で言葉が選択されている。小説はストーリーが存在する点が特徴で、スピーチとはまた違った形で表現が印象的なものとなっている。そして、これらのジャンルの中にあって映画は、スピーチ及びレクチャーと同様に映像と音声を伴い、かつ絵本や小説と同様にストーリーが存在するという点で独特の位置を占めるジャンルであると言える。

3.3 使用する映画

本授業では川崎・榎木（2016）の実践と同様、1998年にアメリカで公開された映画『トゥルーマン・ショー』（*The Truman Show*）を使用した。この映画を引き続き使用した理由は、一度作品中の英語表現について教材研究を行なった映画を通して、さらに活動の可能性について追求したいと考えたからである。

川崎・榎木（2016）は『トゥルーマン・ショー』を

教材に選んだ理由を三点に整理している。一つ目は現代社会に対する問いかけを含んでいる点である。この映画において、主人公 Truman の日常生活は小型カメラを通して全世界に放映されており、周りの人物は番組のキャストである。そして、すべての事柄は脚本によって演出されたものであるが、本人はそのことを知らずに毎日を過ごしている。しかし、しだいに不自然な出来事が連続する中で周りの世界がすべて作り物であったことに気づき始め、ついにはその世界から脱出すべく行動を起こす。これが本作品のあらすじであるが、このストーリーは「現実の世界においても個人が監視されるようになってしまうのではないか」「我々は主体的に行動しているように見えて、実は周りに促されているだけに過ぎないのではないか」といった問いかけを含んでいる。これは大学生の知性に見合った題材である。

二つ目は性や暴力に関する描写がほとんどなく、教育的に問題がないことが確認できていたためである。そして三つ目はこの作品には『The Truman Show—映画総合教材『トゥルーマン・ショー』』（ニコル 2007）が存在し、スクリプトや語注が掲載されているためである。これは教材研究の大きな助けとなる資料である。

3.4 指導目標

本実践では、以下の二つを指導目標に定めた。

- ①映像、音声、英語字幕、スクリプトを利用しながら、映画中の単語・文法について理解する。
- ②「具体的な場面において英語の発話がどのような意味を持つのかを理解する能力」と「具体的な場面において英語の発話がどのような意味を持つのかを踏まえ英語で表現する能力」を向上させる。

3.5 授業展開

	授業展開	時間	活動形態
1	前回の解答用紙の返却 今回の資料の配付	8分	
2	場面1の語句の理解	5分	
3	場面1の視聴	15分	
4	Activity 1	10分	個人
5	発表	3分	
6	解答	7分	
7	場面2の語句の理解	5分	
8	場面2の視聴	15分	

9	Activity 2	10分	個人
10	発表	3分	
11	解答	7分	
12	まとめ	2分	

川崎・柁木（2016）の実践と同様、以上の授業展開は計4回の授業においてほぼ共通で、1回の授業は、「語句の確認（5分）→1場面の視聴（平均15分）→活動（10分）→発表・解説（10分）」というサイクルを二度繰り返す形となっている。1場面の視聴時間が平均15分となったのは、104分の映画を7場面に分けて視聴しようとしたからである。第1日から第3日までは二つの場面を扱い、最終日となる第4日はアンケートの記入などの時間を確保するため、扱う場面は一つとした。3.1節で述べたように、この授業を履修する学生の多くは基本的な単語・文法・発音等の知識を有していることから、映画の視聴は英語音声・英語字幕を基本としたが、難語句が立て続けに出てくる場面では一部、日本語字幕に切り替え、学習者の内容理解の助けとした。

3.6 教材の構成

川崎・柁木（2016）の実践と同様に、本授業の冒頭で配付される資料は毎回、ワークシートと解答用紙の二種類であり、ワークシートは【英語字幕中の語句】、【スクリプト】、【Activity】の三つから成る。【英語字幕中の語句】に掲載されている語句は、1場面につき10から20程度であり、そのうち4つの語句の意味を空欄にしてある。これは当該場面の中で、大学生として知っていることが望ましい語句である。授業ではまず4つの語句の意味を補充し、他の語句にも一通り目を通してもらった上で、映画の視聴に入る。

映画の視聴後、学生には【スクリプト】を見るよう指示する。ここに掲載してある英文は視聴した範囲の一部で、1場面につき10から20行程度の英文になっている。【スクリプト】にはあらかじめ下線や空欄が含まれ、それに対して【Activity】で問いが与えられている。設問の中心となるのは「語用論的な力」を問う問題で、その設問の文言は「下線部を訳した上で、どのような意図を伝えようとする発言か書きなさい」と「下線部に適切な語句を補充した上で、その語句を入れた根拠を書きなさい」の二種類になっている。第1章で示した「語用論的な力」に照らし合わせると、前者が「理解」に関する1に対応する活動で、後者が

「表現」に関する2に対応する活動である。

この「語用論的な力」を問う問題の他、設問のパターンは空欄補充問題と整序問題となっている。本実践では1場面につき「語用論的な力」を問う問題1問と、他の形式の問題1問の、計2問を基本とした。

3.7 活動の詳細

では、7つの場面別に【スクリプト】と【Activity】について説明していきたい。ここで取り上げるのは「語用論的な力」に関する上記二種類の問いで、それ以外の設問に関する説明は割愛する。

第1日〈場面1〉

【スクリプト】

Truman: Laurence.

Laurence: Hey, Burbank. Got a prospect in Wells Park I need you to close.

Truman: Wells Park? On Harbor Island?

Laurence: You know another one?

Truman: I can't do it. I have an appointment. Dentist.

Laurence: ① You're going to lose a lot more than () () if you don't meet your quota. Look, Truman, they're making cutbacks at the end of this month.

Truman: Cutbacks?

Laurence: Yeah. Now, you need this. Besides, a half-hour across the bay, a little sea air would do you (②).

Truman: Thanks. (ニコル他 2007: 66)

【Activity 1】

1. 下線部①に適切な語句を補充した上で、その語句を入れた根拠を書きなさい。
2. 括弧②に入る語を以下から選びなさい。
ア good イ bad ウ harm エ favor

〈場面1〉に登場するのはTrumanと上司のLaurenceで、場所はオフィスである。場面の冒頭でLaurenceはTrumanにWells Parkに契約をまとめに行くよう指示するが、Wells Parkは遠く離れた島であることから、Trumanは歯医者に行く予定があることを理由に断ろうとする。それに対するLaurenceの言葉が下線部①で、これは前後の文脈を踏まえて適切な表現を補充させ、かつその表現を入れた根拠を日本語で説明する問題となっている。括弧内に入るのは“your teeth”で、その根拠の解答例は「歯医者に行くという言い訳をして仕事をしないでいると、歯どころか仕事を失ってし

まうと忠告したい場面だから」というようなものとなる。下線部①の寸前でTrumanがDentistと述べたことを踏まえ、Laurenceが「歯どころか仕事を失うぞ」と警告していることを捉えられるかどうかは解答のポイントとなる。

第1日〈場面2〉

【スクリプト】

Mother: It doesn't sound insane at all, Truman.

I see him ten times a week, in a hundred different faces. I (①) hugged a perfect stranger in the salon last Thursday.

Truman: It was dad. I swear. Dressed like a homeless man.

And you know what else was strange? A businessman and a woman with a little dog came out of nowhere and forced him onto a bus.

Mother: Well! ② It's about time they cleaned up the trash downtown before we become just like the rest of the country.

Truman: They never found Dad's body. Maybe somehow ...

Mother: God!

Truman: I'm telling you, if it wasn't him, it was his twin. Did Dad have a brother?

Mother: Truman, you know perfectly ③ (only / child / well / father / your / was / an / that), just like you. Now sweetie, you're just feeling bad because of what happened. You, sailing off into that storm... But I've never blamed you, Truman. And I don't blame you now. (ニコル他 2007: 72)

【Activity 2】

1. 括弧①に入る語を以下から選びなさい。
ア most イ almost ウ rarely エ soon
2. 下線部②を訳した上で、どのような意図を伝えようとする発言か書きなさい。
(「～という意図」という形でまとめること)。
3. 下線部③を適切な語順に並び替えなさい。

〈場面2〉に登場するのはTrumanとその母親で、場所は母親の家のリビングである。この直前の場面でTrumanは、亡くなったはずの父親によく似た人物と出会う。話しかけようとしたその瞬間、その男は数人の男女に連れ去られ、ついに姿を見失ってしまう。つづいて場面は母親の家に切り替わり、その間

にTrumanは母親にこの出来事について話したことになる。それに対する母親の反応が【スクリプト】冒頭の台詞“*It doesn't sound insane at all, Truman.*”〔(街で見かけた男性を亡くなった父親と見間違うのは)全然おかしいことじゃないわよ, トゥルーマン〕である。実際、この男は父親役の元キャストであるのだが、番組の演出上、死んだという設定になっている。そこで母親は「見間違い」と言って、その男が父親であることを否定するのである。

この【スクリプト】における「語用論的な力」を問う設問は、下線部②を訳した上で意図を説明する問題である。この台詞で母親はTrumanの見た男をホームレスと決めつけており、Trumanがいくら父親であるに違いないと主張しても、ホームレスを一掃するのはいいことよ、と返答するのである。下線部②の訳例は「街のゴミ掃除をするにはいいタイミングじゃない」であり、その意図の解答例は「トゥルーマンが会ったのは単なるホームレスに過ぎないと決めつけることで、トゥルーマンの発言を否定しようという意図」となる。母親がTrumanの見た男はホームレスだと、頑なに主張している文脈を捉えられるかどうかの解答のポイントとなる。

第2日〈場面3〉

【スクリプト】

Truman: What's your rush?

Meryl: Surgery. There was that elevator disaster downtown. It was on the news last night. This cable just snapped. This elevator, it just plummeted down ten flights with nonunion workers. Just monstrous. That building, it's right next door to where you work. Can you imagine if you had been in there? It's not even worth (①). Anyway, I have an amputation on one of the young women who was in the elevator. She's very young. It's very sad. Anyway, wish me luck.

Truman: ②I'll cross my fingers for you.

Meryl: Right. (ニコル他2007: 90)

【Activity 1】

1. 括弧①に入る語を以下から選びなさい。

ア to think イ to think about ウ thinking

エ thinking about

2. 下線部②の*cross one's fingers*とは、人差し指の上に中指を重ねるジェスチャーのことだがこれには、

(1) 幸運を祈る

(2) (指で作った十字架を見えないように背中にまわすなどして隠して) ある状況が嘘であることを意味する

という二つの役割がある。このことを踏まえ、下線部②の発言の意図を説明しなさい。

(「～という意図」という形でまとめること)

〈場面3〉に登場するのはTrumanとその妻Merylで、場所は二人の自宅である。この直前の場面において、Trumanは結婚式のアルバムを眺めるのだが、その際、ある写真の中でMerylが中指と人差し指を交差させるジェスチャーをしていることに気づく。このジェスチャーには【Activity 1】の中で示したような二つの意味があり、この写真の場合は(2)の意味である。つまり、Merylは二人の結婚が番組の演出に過ぎないことを暗に示しているのである。このジェスチャーを発見したTrumanは、自身の周りの世界が作り物であることを確信し始める。それにつづくのが〈場面3〉であり、この場面では看護婦の仕事をするMerylが緊急の手術があると急いで家を出ようとする。それに対してTrumanがかけた言葉が下線部②である。

この【スクリプト】における「語用論的な力」を問う設問は、この下線部②の意図を説明する問題となっている。〈場面2〉の設問と「意図を説明する問題」という点では共通しているが、上で示したように、この設問では“*cross one's fingers*”という語句の持つ意味を与えてある。すなわち、中指と人差し指を交差させるジェスチャーが英語圏において持つ文化的意味を踏まえた上で、その意図を説明する問題となっている。解答例は「表面的には手術の成功を願いつつも、自分に嘘をついていることを暗に指摘しようという意図」である。上記のジェスチャーがこの文脈で持つ二つの意味を読み取れるかどうかの解答のポイントとなる。

第2日〈場面4〉

【スクリプト】

Meryl: Truman!

Truman: Where shall we go? Where...shall...we...go?

Meryl: Truman, where are we going?

Truman: I don't really know. I guess I'm being spontaneous.

Meryl: Oh!

Truman: Somebody, help me! I'm being spontaneous!

Meryl: Truman!

Truman: Forget Fiji. Can't very well drive to Fiji, can we?

Meryl: No.

Truman: What about Atlantic City?

Meryl: Oh, no, you hate to gamble.

Truman: That's right, I do, don't I?

Meryl: So, why would you want to go there?

Truman: Because I never have. That's why people go places, isn't it?

Meryl: Truman, I think I'm going to (①).

Truman: Me, too!

Truman: Blocked at every turn. ② Beautifully synchronized, don't you agree?

Meryl: You're blaming me for the traffic?

Truman: Should I?

Meryl: Truman, let's go home.

Truman: You're right. We could be stuck here for hours. It could be like this all the way to Atlantic City. Let's go back. (ニ科尔他 2007: 96-97)

【Activity 2】

1. 括弧①に入る語を以下から選びなさい。
ア go up イ wake up ウ give up エ throw up
2. 下線部②を訳した上で、どのような意図を伝えようとする発言か書きなさい。
(「～という意図」という形でまとめること)。

〈場面4〉に登場するのもTrumanとMerylで、場所は自家用車の中である。この直前の場面でTrumanは、車内から通りを観察した結果、同じ人、同じ車が同じ順番で行き来していることに気づく。そのときまたまた帰宅したMerylを車内に招き入れ、Trumanはそのことを伝えるが、Merylは相手にしようとしめない。そこでTrumanは車を急発進させ、街の不自然さをMerylに知らしめようとするのである。

この【スクリプト】において「語用論的な力」を

問うのは下線部②で、〈場面2〉と同様、訳をした上で意図を説明する問題となっている。この下線部直前で、Trumanが車を発進させると、それを妨害しようとするかのように何台もの車が通りに押し寄せ、たちまち渋滞となる。このあまりに不自然な状況に対して、Trumanが口にする言葉が“Beautifully synchronized, don't you agree?”である。訳例は「素晴らしいコンビネーションだと思わないか?」であり、その意図の解答例は「渋滞があまりに不自然であることを指摘することで、すべてが仕組みられたものであることに自分が気づいていることを伝えようという意図」となる。突如大渋滞が発生するという不自然さをTrumanが皮肉っていることを理解できるかが解答のポイントとなる。

第3日〈場面5〉

【スクリプト】

Truman: I don't know what to think, Marlon. Maybe I'm losing my mind, but it feels like the whole world revolves around me somehow.

Marlon: That's a lot of world for one man, Truman. Sure that's not wishful thinking? You wishing you'd made more out of yourself? Come on, Truman, who hasn't sat on the john and had an imaginary interview on "Seahaven Tonight"? ① Who hasn't wanted to be somebody?

Truman: This is different. Everybody seems to be in on it.

Marlon: I've been your best friend since we were seven years old, Truman. The only way you and I ever made it through school was by (②) off each other's test papers. Jesus, they were identical. I always felt safe knowing that. 'Cause whatever the answer was...

Truman and Marlon: ...We were right together and we were wrong together. (ニ科尔他 2007: 104)

【Activity 1】

1. 下線部①をsomebodyの意味に注意して訳した上で、どのような意図を伝えようとする発言か書きなさい
(「～という意図」という形でまとめること)。
2. 括弧②に入る語を以下から選びなさい。
ア taking イ putting ウ calling エ cheating

〈場面5〉に登場するのはTrumanとその親友Marlonである。この場面の冒頭でTrumanは、自身を取り囲む世界の不自然さについて打ち明け、「まるで世界が

自分を中心に回っているような気がするんだ」と言う。これに対して Marlon は「それはお前の願望に過ぎないんじゃないのか」と応じる。〈場面 2〉に登場した母親と同様、Marlon も番組のキャストであることから、番組上の演出が Truman に悟られないよう必死なのである。

この【スクリプト】において「語用論的な力」を問うのは下線部①で、やはり訳をした上で意図を説明する問題となっている。下線部中の単語 somebody は「誰か」という意味が基本だが、この文脈には合わない。そのことに気づき、「大物」という別の意味を当てはめることが正答への第一歩となる。この箇所の訳例は「誰だって大物になりたいと思うものさ」であり、その意図の解答例は「誰もが世間に注目されるような大物になりたいんだと言いつけさせることで、誰かに見られているというトゥルーマンの発言を否定しようという意図」となる。周りで不自然なことが起こっているという Truman の疑いを、Marlon が必死に晴らそうとしていることを理解できるかどうかを解答のポイントである。

第 3 日〈場面 6〉

【スクリプト】

Sylvia: What right do you have to take a baby...and turn his life into some kind of mockery? Don't you ever feel (①)?

Christof: I have given Truman a chance to lead a normal life. The world, the place you live in...is the sick place. Seahaven is the way the world should be.

Sylvia: He's not a performer, he's a prisoner. Look at him. Look at what you've done to him!

Christof: He could leave at any time. If his was more than just a vague ambition, if he was absolutely determined to discover the truth... there's no way we could prevent him. I think what distresses you really, caller, is that ultimately ②Truman prefers () (), as you call it.

Sylvia: That's where you're wrong. You're so wrong. And he'll prove you wrong. (ニコル他 2007: 115)

【Activity 2】

- 括弧①に入る語を以下から選びなさい。
ア good イ guilty ウ safe エ uneasy
- 下線部②に直前の Sylvia のセリフに注意して適切な語句を補充した上で、その語句を入れた根拠を書きなさい。

〈場面 6〉に登場するのは番組ディレクターの Christof と、番組に対して批判的な Sylvia である。直前の場面において、Christof は Truman を取り囲む世界がすべて“The Truman Show”というテレビ番組の一部であることを説明する。それに対して、Sylvia は「何の権利があつてトゥルーマンを笑いのネタにしているの」と批判するが、Christof は「私はトゥルーマンに普通の生活を送る権利を与えているのだ」と反論する。それに対して Sylvia は「これではトゥルーマンは囚人じゃない」と応じる。

この【スクリプト】において「語用論的な力」を問うのは下線部②で、〈場面 1〉と同様、適切な表現を補充した上で、その根拠を説明する問題となっている。この箇所の空欄に入るのは“his cell”で、その根拠の解答例は「シルヴィアがトゥルーマンを『囚人』に例えたことを利用し、彼は自ら望んで『独房』にいるのだと反論したい場面だから」となる。「囚人」という Sylvia の例えを Christof が巧みに利用し、Truman は自ら好んで「独房」にいるのだと反論していることを理解できるかどうかを、解答のポイントとなる。

第 4 日〈場面 7〉

【スクリプト】

Truman: Who are you?

Christof: I am the creator of a television show that gives hope and joy and inspiration to millions.

Truman: Then who am I?

Christof: You're the star.

Truman: Was nothing real?

Christof: You were real. That's (①) made you so good to watch. Listen to me, Truman. There's no more truth out there... than there is in the world I created for you. The same lies... the same deceit. But in my world, you have nothing to fear. I know you better than you know yourself.

Truman: ②You never had () () in my head.

Christof: You're afraid. That's why you can't leave. It's okay, Truman. I understand. I have been watching you your whole life. I was watching when you were born. I was watching when you took your first step. I watched you on your first day of school. The episode when you lost your first tooth. You can't leave, Truman. (ニコル他 2007: 138)

【Activity】

1. 括弧①に入る語を以下から選びなさい。
ア why イ how ウ when エ what
2. 下線部②に適切な語句を補充した上で、その語句を入れた根拠を書きなさい。

この〈場面7〉は映画の最終場面で、作られた世界からの脱出を試みたTrumanにChristofが語りかける場面である。Christofは長年、Trumanをカメラで見続けてきたが、当然TrumanはChristofのことを知らない。そのためこの場面は“Who are you?”というTrumanの台詞から始まる。それに対してChristofは自身が番組のディレクターであることを明かし、この世界にとどまるようTrumanを説得しようとする。Christofは「君よりも君のことをよく知っている」と断言し、それにつづくのが下線部②のTrumanの台詞である。

この【スクリプト】において「語用論的な力」を問うのはこの下線部②で、〈場面1〉〈場面6〉と同様、適切な表現を補充した上で、その根拠を説明する問題である。この箇所の空欄に入るのは“a camera”で、その根拠の解答例は「自分のことをずっとカメラで監視していたとしても、自分の考えていることまではわからないはずだと反論したい場面だから」となる。下線部②が直前のChristofの発言を否定しようとするものであることを理解できるかどうか、解答のポイントとなる。

4. 分析

4.1 方法

文脈を把握した上で解答することが求められる際、映画の持つ特徴がどのように助けとなっているのかを調査するため、最終日に実施したアンケートと各回の授業で扱った解答用紙の記述を分析の対象とした（実際の解答用紙とアンケート用紙はそれぞれ資料1, 2として末尾に付したので参照されたい）。その際、以下の手順で調査を行った²⁾。まず、アンケートにおいて映画を手掛かりにしたと回答した学生のうち、映画の特徴を具体的に述べている学生を抽出した。例えば、「映像」や「音声」への言及である。そして、その回答を詳細に見ていくことで、「映像」や「音声」の何がどのように解答を導く手掛かりとなったのかを整理した。次に、上記の学生の解答用紙の記述を分析することで、映画の特徴が助けになったと感じる学生が、実際に、文脈を把握できたと言えるのかどうかを検討した。

4.2 アンケートの記述

アンケートは自由記述式で、その問いは、「英文を読んで設問を解く上で、映画を手掛かりにしましたか？ そうであれば、どのように手掛かりにしましたか？」である。以下の表は、アンケート回答において、映画を手掛かりにしたと回答した学生のうち、映画の「映像」や「音声」について述べている学生の記述例である。学生の名前は全て仮名である。

アンケートの回答

学生（仮名）	アンケートの記述
丹野	登場人物の口調や場面など映像を思い出しながら、話の流れがどのようになるかを考え、問題を解いていきました。
深川	話し手、聞き手の表情や声色、また、話の前後関係を手掛かりにした。
山野	英語字幕を読む
二木	字幕や音声のききとり、あとは、登場人物の感情などから、場がどんな雰囲気だったかを参考に
橋爪	演者の声の出し方や表情でどのような感情で言葉を発しているのかを理解しやすくなりました。
戸山	字幕がすぐに消えてしまう場合、字幕だけでは内容がわからないので役者の様子やリアクションのとり方を参考にした。また、「～という意図」という問題では役者の話し方や表情もヒントにして皮肉が込められているかなどを考えた。
平山	英文を読むときに、映画で見たシーンを思い浮かべながら読むことで、ただ文を読むのではなく、登場人物の気持ちになりきることで、穴うめ問題はといた。
山田	あるセリフを言ったときの表情や声の強さなどを手がかりにそのセリフの裏に隠されている人物の心情を読み取った。

まず、上記のアンケート回答から、各学生が「音声」や「映像」から得られる何を、どのように手掛かりにしているかを整理する。「音声」については、「登場人物の口調」、「声色」、「演者の声の出し方」、「役者の話し方」、「声の強さ」といった要素が挙げられている。「映像」に関しては、「表情」が挙げられた。そして、「音声」と「映像」の両方に関係する点として、「登場人物の感情」、「場面」、「場がどんな雰囲気だったか」、「役者の様子やリアクションのとり方」、「シーン」などの語句が見られる。また、「音声」とも「映像」とも言い難い点としては、「英語字幕」が挙げられている。

次に、これらの要素がどのように助けとなっているかを見ていきたい。例えば、「話し方や表情もヒン

トにして皮肉が込められているかなどを考えた」(戸山)、「映画で見たシーンを思い浮かべながら読むことで、ただ文を読むのではなく、登場人物の気持ちになりきる」(平山)、「あるセリフを言ったときの表情や声の強さなどを手がかりにそのセリフの裏に隠されている人物の心情を読み取った」(山田)という記述に見られるように、映画視聴後に英文を読む際、視覚的、聴覚的な要素を思い出しながら、言葉の働きに注意を払ったり、話者の心情を捉えたりしていることがわかる。

このように、アンケート回答からは、「映像」のみ、「音声」のみを頼りにした学生もいたものの、多くの学生がどちらにも関係する点について言及したことがわかる。これらの要素は、場面を具体的に思い浮かべながら文脈を理解することを可能にするという意味で、映画の教材としての強みの一つであると言える。

4.3 解答用紙の記述

全4回の実践を通じ、英文を日本語訳した上でそれがどのような意図を伝えようとする発言かを記入する活動と、英語表現を括弧に記入した上でその根拠を記入する活動を実施した。このような「理解」の側面と「表現」の側面に焦点を当てた多様な活動を通じ、学習者が文脈を把握していると言える解答を残していたのかを見ていきたい。

第1日〈場面1〉

学生(仮名)	解答用紙の記述
丹野	語句:(the) (past) 根拠:後ろの文で、今月の終わりに減給しようとしている、と言っているから。
深川	語句:(some) (teeth) 根拠:歯医者に行くよりもノルマを達成する方が大切だと言っている場面だから。
山野	語句:(loosing) (tooth) 根拠:歯医者に行かないで、歯を失うより重要なものをなくすということを言いたい。
二木	語句:(your) (teeth) 根拠:直前に歯医者に行くというウソについてだから
橋爪	語句:(you) (are) 根拠:Trumanの将来と現在を比較しているから。
戸山	語句:(your) (teeth) 根拠:上で歯医者の予約があることを理由に断ろうとするTrumanにもっと大切な物を失うだろうと歯医者に関連するもので比較すると思ったから

平山	語句:(now) (無回答) 根拠:ノルマをみたさないなら、給料が減るようなことを言っているから。
山田	語句:(you) (have) 根拠:a lotが不加算名詞にかかるものなので、具体的なものを指してなく、ノルマを満たさない失うものが多いと思ったから。

第1日〈場面1〉の設問は、括弧に当てはまる表現を記入した上で、そのように考えた根拠を記述するものである。文脈に適した英語表現を記入できた学生は限られているが、「根拠」の解答欄を詳細に見ると、例えば丹野のように十分とは言えない学生が数名いるものの、文脈を捉えられている学生も見られる。例えば、アンケートで「話し手、聞き手の表情や声色、また、話の前後関係を手掛かりにした。」と回答している深川は、「歯医者に行くよりもノルマを達成する方が大切だと言っている場面だから。」と「根拠」の欄に記述し、2人の会話が示すこの場の文脈を捉えられている。ここで示されている「忠告」という意味合いの語句を使ってはいないものの、Laurenceの“You're going to lose a lot more than your teeth if you don't meet your quota. Look, Truman, they're making cutbacks at the end of this month.”というセリフが、この文脈において、どのような意味を持つのかについては理解していると言える。また、この学生のアンケート回答を再度見ると「話し手、聞き手の表情や声色」を手掛かりにしたと記されているが、本設問を解く際にも、この場面特徴的であったLaurenceの「忠告」を表現する声色なども解答を導く上で助けとなったのではないかと考えられる。

第1日〈場面2〉

学生(仮名)	解答用紙の記述
丹野	訳:彼らはそろそろ町でがらくたを片付けるころだ。 意図:彼らは彼をホームレスだと思ってどこかにおいやってしまうのだろうという意図。
深川	訳:彼らがダウンタウンのゴミをきれいにするころよ。 意図:ホームレスがトゥルーマンの目の前で連れ去られたことを正統化しようという意図。
山野	訳:まさにその時だったのよ。下町にゴミを片付けただけよ。 意図:きたないもの(父:ホームレス)を排除した、他の街と同じようにならぬようにという意図。
二木	訳:そろそろゴミの収集の時間だ。 意図:無回答

橋爪	訳：そろそろ彼らがダウントウンのゴミを掃除する頃だわ。 意図：無回答
戸山	訳：街のゴミをそうじする良い機会でしたよ。 意図：その男は父親でないかと納得させ、目の前で起こったことをごまかすという意図。
平山	訳：彼らがダウントウンのゴミをまさにきれいにするときだ 意図：父親をこの世から消そうとするという意図。
山田	訳：犬を連れた男女のビジネスマン2人がこの町からホームレスをいなくさせるのにはいいころあいだ。 意図：トゥルーマンの父親は決してホームレスになるような人ではなかったのでトゥルーマンが見た人は父親ではないという意図。

第1日〈場面2〉の「訳」については、時制を間違っていたり不要な語句を書いていたりする学生がいるものの、ほとんどの学生が正しく記述できたのに対し、文字通りの意味ではなく文脈を把握することが求められる「意図」を考える設問については難易度が高かったようである。実践の第1日ということもあるが、「意図」に関して空欄のまま提出した学生も見受けられた。

一方で、発言の意図を正しく理解できていると言える解答も見られる。例えば、戸山は、「その男は父親でないかと納得させ、目の前で起こったことをごまかすという意図」と解答していることから、Trumanの母親が伝えたいことを理解していると言える。戸山のアンケート回答を確認すると、『「～という意図」という問題では役者の話し方や表情もヒントにして皮肉が込められているかなどを考えた。』という記述がある。この場面は、Trumanの母親が、“Well! It’s about time they cleaned up the trash downtown before we become just like the rest of the country.”と発言する箇所であるが、単に発話された英文のみならず、映画に映し出される表情や声のトーンからもTrumanの発言を真っ向から否定している様子がわかる場面である。戸山の解答に見られる「ごまかす」という記述は、映画の中でTrumanが発見した事柄が、母親にとっては都合の悪いことであり、否定しなければならなかったという事情が理解できていなければ導き出されないはずである。それを考慮すると、この学生は、映画の視覚的、聴覚的な要素を頼りにし、文脈を把握することができたと言える。

第2日〈場面3〉

学生（仮名）	解答用紙の記述
丹野	少女の手術が成功してほしいと祈るが、二人の結婚がうそだという意図。
深川	表面的には手術の成功を祈っているという意図がありつつも、今の状況に対し疑念を抱いていて、妻のことも疑っているというニュアンスを出すという意図。
山野	結婚式で嘘の誓いをたてたことを見抜いたことを伝えようとしている
二木	オペの成功以上に確かめたいこと（結婚指輪関連？）に興味があるのでオペの成功を表向きでは祈りつつその機会を利用させてもらうという意図
橋爪	これから手術に望む妻の成功を祈るという意図。だが内心は嘘だろうなどと勘付いている。
戸山	幸運を祈っているということを伝えると同時にMerylがTrumanに何かかくし事をしていているということをTrumanは気付いているとMerylに遠回しに伝えるという意図
平山	Merylが女性の手術で忙しいといっていることを疑うという意図。
山田	Merylが今日行う手術がうまくいくようにと幸運を祈るという意図と自分と結婚したことには何か隠された意図があるのではないかとということ皮肉っているという意図。

第2日〈場面3〉の設問は、発言の意図を説明するという点では他の設問と同じであるが、問いの立て方が多少異なる。文化に関する知識が必要な設問であることから、問いの文言の中に“cross one’s fingers”に関するヒントを加えた。そのため、表面的に伝えたい内容と、発言に込めたもう一つの意味の2種類があることを理解することは、学生にとってそれほど難しくなかったようである。上記の表に示した解答一覧からも、全体的に両方の意味を正しく捉えることができていくことが確認できる。深川の「表面的には手術の成功を祈っているという意図がありつつも、今の状況に対し疑念を抱いていて、妻のことも疑っているというニュアンスを出すという意図。」や山田の「Merylが今日行う手術がうまくいくようにと幸運を祈るという意図と自分と結婚したことには何か隠された意図があるのではないかとということ皮肉っているという意図。」がその例である。どちらの学生もアンケートに記述している通り、話される英文だけではなく話し手の表情などを手掛かりにしたはずだが、山田はアンケートにおいて「あるセリフを言ったときの表情や声の強さなどを手がかりにそのセリフの裏に隠されている人物の心情を読み取った」と回答していることから、この場面でTrumanが発言に込めた「皮肉」を表

情や声の強さからも読み取ったのではないかと考えられる。

また、正解だと言うには記述が足りない解答についても、「結婚式で嘘の誓いをたてたことを見抜いたことを伝えようとしている」(山野)や「Merylが女性の手術で忙しいといっていることを疑うという意図」(平山)などの記述に見られるように、2つの意味のうち、表面的な意味については言及していなくとも、この発言を通じてTrumanが最も伝えたい「Merylが自分に嘘をついていることに気付いている」という発された言葉の裏にある意味については理解できていることから、文脈を踏まえられていると言える。

第2日(場面4)

学生(仮名)	解答用紙の記述
丹野	訳:美しく一緒にいると思わないかい? 意図:僕のことを止めさせようとしているのではないかと疑っている
深川	訳:美しく一致しているよ。そう思わないかい? 意図:車が一齐に曲がってきたのを不自然だと伝え、何か大きな物の存在を疑っていることを示したい意図
山野	訳:なんて偶然だ、君もそう思うでしょ 意図:偶然渋滞したことがおかしいということを示そうという意図(皮肉ってる)
二木	訳:美しいと思えるくらい息がピッタリだ、そう思わないかい? 意図:世界が自分の行動を妨げるよう作られているのではないかと伝えるという意図
橋爪	訳:すばらしく同じようだ、君は同意しないかい? 意図:計画されたものだと思っているという意図
戸山	訳:美しく同調している。そう思わないかい? 意図:自身の車の進行を他の車が意図的に妨げているのではないかとMerylにこの状況を見せつけ、自分は異常に気付いているとMerylに伝えようとする意図
平山	訳:美しいようにならんでいると思わないかい? 意図:一度はMerylに賛成したが、もう1度出発するのを誘発するという意図。
山田	訳:きれいにシンクロしていると思わないかい? 意図:Merylにこのようなことは絶対にありえないので、この世界が作られたものであると伝える意図

第2日(場面4)の設問に関しては、「訳」と「意図」の両方を正しく記述できた解答が多数見られる。とく

に「意図」に関する設問については、文字上の意味とその裏にある意味の違いを示しながら記述できるようになったと言える学生が多い。例えば、「偶然渋滞したことがおかしいということを示そうという意図(皮肉ってる)」(山野)のように、発話される英文を通じ、どのような意味が示されているのかを記述している。

この場面は、映像や音声からも得られる情報が多い場面であるが、この設問の前に取り組んだ第2日(場面3)の設問を解く過程で、文字通りの意味と文脈上の意味の違いが大きな例について考えたことも、上記の解答が見られた要因だと考える。

一方、「一度はMerylに賛成したが、もう1度出発するのを誘発するという意図」(平山)のように、映画から得た情報を、誤って捉えたことで、意図を正しく把握できていない解答も見られた。

第3日(場面5)

学生(仮名)	解答用紙の記述
丹野	訳:誰が偉い人でありたいと思わないだろうか。 意図:Trumanが思っていることはかんちがいだと言う。
深川	訳:特別な人になりたいと思わない人がいると思うかい? 意図:自分を特別だと思っているのはトゥルーマンだけでないことを伝えることで、トゥルーマンの周囲への疑いを晴らそうという意図
山野	訳:大物になりたくないやつなんていないだろ? 意図:トゥルーマンが気付いていることはただの思い込みで、誰もがそういう風に生きたいということを示そうという意図
二木	訳:大物になりたいと思っていないのは誰だ? 意図:無回答
橋爪	訳:誰かになりたいと思ったことない人なんているかい 意図:Trumanの疑問を解消させようとしている。
戸山	訳:誰がその他のわき役になることを望まなかったんだ? 意図:誰も世界が自分中心に回っていると感じることはあるのでTrumanの感じた異常もそれに過ぎないとたしなめようとする意図。
平山	訳:大物になりたいと思わないやつはいるかい? 意図:トゥルーマンが世界が自分中心にまわっているように感じることにについてトゥルーマンはおかしくないと伝える意図[原文ママ]。

山田	訳：だれが本当にそのような映画の主役であるような重要人物になりたくないと思うだろうか、いや思わない。 意図：Trumanが知らないうちにある映画の主役であるような重要人物になっていたということを暗示している意図。
----	---

第3日〈場面5〉の「訳」については、上記の学生の多くがここでの“somebody”を「大物」や「重要人物」など適切に記述することができている。一方で、橋爪のように、文字通りの意味を記入した学生も見られた。

「意図」については、無回答が1名いるものの、記入していた学生については、この場面の状況を理解していたと言える。この場面で、Trumanの友人であるMarlonは、Trumanの考えていることはただの思い込みであると伝えることでTrumanの考えを否定しようとしている。このことを理解している記述は次の解答に見られる。「Trumanが思っていることはかんちがいで言う。」(丹野)、「自分を特別だと思っているのはトゥルーマンだけでないと伝えることで、トゥルーマンの周囲への疑いを晴らそうという意図」(深川)、「トゥルーマンが気付いていることはただの思い込みで、誰もがそういう風に生きたいということを伝えようという意図」(山野)、「誰しも世界が自分中心に回っていると感じることはあるのでTrumanの感じた異変もそれに過ぎないとたしなめようとする意図。」(戸山) などである。

そして、MarlonがTrumanの考えを否定したいという点を記述していないために、十分だとは言いがたい解答であっても、間接的にその意味を示している解答が確認できた。「トルーマンが世界が自分中心にまわっているように感じることにについてトルーマンはおかしくないと伝える意図〔原文ママ〕。」(平山) や「Trumanが知らないうちにある映画の主役であるような重要人物になっていたということを暗示している意図。」(山田) がその例である。

第3日〈場面6〉

学生 (仮名)	解答用紙の記述
丹野	語句：(being) (monitored) 根拠：Sylviaが“he’s a prisoner.”と言ったことを受けて。
深川	語句：(to) (perform) 根拠：クリストフはトゥルーマンがその気になればその環境から抜け出せるにも関わらず、そうせずに今いる環境が良いと思っている、と考えているから。
山野	語句：(his) (prison) 根拠：彼 (トゥルーマン) は自分の世界に満足しているとクリストフは思っているから。

二木	語句：(being) (mockery) 根拠：逃げるチャンスはあったが逃げなかった→シルビアの発言から単語をもってきた。+あなたが言ったように
橋爪	語句：(a) (prisoner) 根拠：Christofは、Sylviaが責めるほど、Trumanは不自由ではないということを主張するという意図。
戸山	語句：(his) (cell) 根拠：無回答
平山	語句：(to) (無回答) 根拠：無回答
山田	語句：(the) (performer) 根拠：下線部の後にwrongとあり、前の発言で否定しているから。

第3日〈場面6〉の「表現」については、正しく記入できていない学生が多い上、正しい解答をしていた戸山についても根拠に関しては無回答であるため、その解答の信憑性に欠ける。英語表現を書く活動は、第1日〈場面1〉と同様に、学生にとって難易度が高かったようである。

しかし、根拠についての各学生の記述を見ていくと、問題となっている下線部の前のSylviaの発言に見られる“prisoner”を踏まえた上で、問われている英文はそれに対する反論や否定を示しているということを理解できたことがわかる。例えば、「Sylviaが責めるほど、Trumanは不自由ではないということを主張するという意図。」(橋爪) や「逃げるチャンスはあったが逃げなかった→シルビアの発言から単語をもってきた。+あなたが言ったように」(二木) などである。また、十分とは言えないものの、「Sylviaが“he’s a prisoner.”と言ったことを受けて。」(丹野)、「彼 (トゥルーマン) は自分の世界に満足しているとクリストフは思っているから。」(山野)、「下線部の後にwrongとあり、前の発言で否定しているから。」(山田) といった解答には、どのような文脈で話が展開されているのかや、話し手であるChristofの考えが示されている。

第4日〈場面7〉

学生 (仮名)	解答用紙の記述
丹野	語句：(your) (voice) 根拠：Christofが“you’re afraid.”と言っていることから考えて、TrumanはChristofに話しかけられたくないと思っている。声におびえている。
深川	語句：(無回答) (camera) 根拠：トゥルーマンはカメラを向けられるのを嫌がっていたから。

山野	語句：(the) (camera) 根拠：君よりも君を知っているというクリストファーに対して自分の頭の中(考え)は分からないだろうという風な感じ
二木	語句：(caught) (無回答) 根拠：無回答
橋爪	語句：(turned) (up) 根拠：TrumanはChristofの存在に全く気付いていなかったため。
戸山	語句：(been) (watching) 根拠：その後の文章に「I have been watching you your whole life」というのがあり、これはTrumanの直前の否定を受けてのことであると考えたため、同じ形のbeen watchingを入れた。
平山	語句：(talked) (me) 根拠：トルーマンはChristofがトルーマンのことを何でも知っているといっていることに反論しようとしている。
山田	語句：(been) (anywhere) 根拠：Trumanの発言にWho are you?とあり、Christofの作った映画のスターであるという自覚がなかったから。

第4日(場面7)については、「表現」に関する他の問題と同様に、ほぼ正解に近い解答はあるものの、正解だと言える英語表現の記述はなかった。

しかし、「根拠」に関する解答に着目すると、文脈を捉えられていたことがわかる記述が見られる。例えば、「君よりも君を知っているというクリストファーに対して自分の頭の中(考え)は分からないだろうという風な感じ」(山野)や「トルーマンはChristofがトルーマンのことを何でも知っているといっていることに反論しようとしている。」(平山)などが挙げられる。

山野の解答を具体的に見ると、「表現」の欄に解答として適切な“camera”という語句を用いていることから、「根拠」の欄にある「自分の頭の中(考え)」をこの文脈に合った表現に置き換え、記述したことが読み取れる。平山に関しては、「反論」という語句を用いることで、発話される英文を通じTrumanが伝えたいことを表している。平山は、アンケートにおいて、「英文を読むときに、映画で見たシーンを思い浮かべながら読むことで、ただ文を読むのではなく、登場人物の気持ちになりきることで、穴うめ問題はといた。」と述べているが、この場面での“You never had a camera in my head”というセリフは、Trumanの行動の背景にある思いが強く込められているものであり、彼の気持ちを理解することが、正しく解答するための鍵となる。アンケートに記されているように、視聴した場面を思い出ししながら、発話の意図を考えることができた

例であると言える。

以上より、まず「理解」に関しては、抽出した8名のうち、映像や音声を手掛かりとしたと回答した深川や戸山らを始めとする7名は、発話の意図を正しく理解できたことが窺える。一方で、映像や音声と直接関係があるとは言えない、英語字幕を手掛かりにした山野もまた、文脈を踏まえた解答を記入していた。このことから、映像と音声は文脈を踏まえて英文を理解するための補助となっていると言えるが、その効果は限定的であると考えられる。そして、「表現」に関しては、実践の最終日の解答を見ても、文脈に合った英語表現を書くことは難しかったことが確認できる。一方、「表現」の設問と同時に課した「根拠」を考える活動を通じて、間接的に「理解」を促すことはできたと言える。

5. 考察

本論文の目的は、大学英语授業において映画を用いて「語用論的な力」を育成することを意図した教材を複数提示し、かつそれに対する学習者の反応を記述・分析することであった。このことを通して、映画が「語用論的な力」の育成に資することを示すことを目指した。そのために、まず、第3章で、「語用論的な力」の「理解」の側面と「表現」の側面に焦点を当てた多様な活動を、授業で扱った教材に即して述べた。

そして、第4章では、アンケートと解答用紙に記されたデータより、学習者の反応を記述し、分析した。その結果、以下のことが明らかとなった。1) 映画の特徴である映像や音声を手掛かりとした学生が、「理解」の活動において、文脈を把握していると言える解答をしていたこと、2) 「表現」の活動の中で「根拠」を問う設問に取り組むことを通じて、「表現」の活動は間接的に「理解」を促すことにつながったことである。

まず、1) については、全7場面の活動で扱った解答用紙とアンケートのデータを照らし合わせながら整理することで、その様相が見えた。一方で、英語字幕を手掛かりにしたと回答した学生が文脈を捉えられていた例が見受けられたことから、映像と音声の効果は、限定的であると言える。英語字幕は映像や音声と同時に画面に映し出されるものであり、映像や音声と切り離して考えることができない。そう考えると、英語字幕も映画の持つ特徴的な要素であり、それが文脈を把握する上でどのように影響しているのかを追究するためには、さらなる検証が必要である。

次に、2) については、当初は「表現」の育成を目

指したいという思いから作成したのであるが、解答用紙を分析した結果、短期間で英語で表現することができるようになることは依然として難しいことが明らかとなった。一方、「表現」の設問の中に組み込んだ「根拠」を書かせる活動を通じ、「語用論的な力」を育む上で必要な文脈を捉える練習はできたようである。つまり、「表現」と「理解」に焦点を定めた活動を同時に行うことで、「表現」を目指す活動の副次的な効果として「理解」を向上させることができそうである。ただし、論文の冒頭でも示した通り、本実践では、年間シラバスや学習者の習熟度から、「理解」に関しては辞書の意味と話者の意図との差が大きい例を扱ったり、「表現」に関しては補充する形式の設問としたりすることで、制限を設けたことを考慮すると、この効果の信憑性はあくまでも限定的なものにとどまる。

6. おわりに

資料1 解答用紙の例（第1日に配布）

映画『トウルーマン・ショー』(The Truman Show) 解答用紙 1 2016.6.30

【自分の解答の記入欄】

Activity 1

1. (語句) () () ()
(根拠)

2. ()

Activity 2

1. ()

2. (訳)
(意図) という意図。

3.

【模範解答の記入欄】

Activity 1

1. (語句) () () ()
(根拠)

2. ()

Activity 2

1. ()

2. (訳)
(意図) という意図。

3.

今日の授業を振り返り、わかったことや考えたことを書こう！

メモ欄 (絵やつぶやき)

時間: _____ 学籍番号: _____ 名前: _____

近年、大学において英語運用能力を育成することに対する社会的要求は、ますます高まっている。国際化社会と呼ばれて久しい今日において、これは当然のことと言える。その英語運用能力の重要な一部分と言えるのが「語用論的な力」であり、この能力を育成する上で有効な教材と考えられるのが映画である。これまでに、映画を用いた授業例を具体的に提示し、かつそれに対する学習者の反応を詳細に記述した研究がほとんどないという状況の中で、その一事例を提示したことが本論文の意義となろう。

一方、今後の課題は三つある。一つ目は「理解」の活動の題材として、辞書の意味と意図の開きが大きい例を提示した際、いかに指導を行うかについてである。第2章で述べたように、今回は辞書の意味と意図の開きが小さい箇所を扱ったが、実際の場面において、コミュニケーションに大きな支障をきたす可能性が高いのは、両者の開きが大きな場合である。例えば、こちらが何かの依頼をした際、相手が婉曲的に断っているのに、了承していると受け取ってしまったら、重大な

資料2 アンケート用紙（第4日に配布）

映画『トウルーマン・ショー』(The Truman Show) 解答用紙 4 2016.7.21

【自分の解答の記入欄】

1. ()

2. (語句) () () ()
(根拠)

3.

【模範解答の記入欄】

1. ()

2. (語句) () () ()
(根拠)

3.

【アンケート】

英文を読んで設問を解く上で、映画を手掛かりにしましたか？
そうであれば、どのように手掛かりにしましたか？

した

しなかった

今日の授業を振り返り、わかったことや考えたことを書こう！

メモ欄 (絵やつぶやき)

時間: _____ 学籍番号: _____ 名前: _____

ミスコミュニケーションに発展しうる。このような例が映画の中に含まれていたとき、どのような手順で指導するのがよいかについての検討は今後の課題となる。

二つ目は「表現」に関する活動の再検討である。今回、「表現」の活動は結果として、「理解」の活動として機能し、「表現」の活動として十分に機能したとは言えない。また、今回は数語の単語を補充する形の活動を課したが、一般に「表現」の活動と言った場合、もっとまとまった量の発話を意味するのが普通である。これは対象となった学生が英作文を苦手としていることを踏まえた判断であったが、今後、徐々に発話の語数を増やしていけることが望ましい。その際は半期や年間といった長いスパンで学習指導計画を立てる必要がある。これらの点も今後の課題である。

三つ目はアンケートにおいて「理解」や「表現」の根拠として、英語字幕を挙げた学生をどう考えるかについてである。英語字幕を読む際は、同時に映像と音声も踏まえている可能性が高いが、しかし一方で、両者をあまり手がかりとせず活動を行なっている可能性も残る。このような回答が今後も見られた場合、どのように考えるかについては検討が必要である。

以上のような課題を踏まえながら、今後も英語映画を教材とした実践について研究を深めていきたい。

付記

本論文は1, 2, 3, 6を柗木が、4, 5をシオルティが執筆している。

注

- 1) 語用論の概要については、中島(2012)、三原・高見(2013)、アロット(2014)、今井(2015)などを参照されたい。
- 2) 記述解答の質的分析を行う際は、秋田・恒吉・佐藤(2005)及び秋田他(2013, 2015)の分析方法を参考にした。

参考文献

- 秋田喜代美(2015)「言語力としてのメタ文法能力の育成」東京大学教育学部カリキュラム・イノベーション研究会(編)『カリキュラム・イノベーション—新しい学びの創造へ向けて』東京大学出版会, pp.53-64
- 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学(編)(2005)『教育研究のメソッドロジー—学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会
- 秋田喜代美・藤江康彦・斎藤兆史・藤森千尋・三瓶ゆき・王林鋒・柗木貴之・濱田秀行・越智豊・田宮裕子(2013)「国語科と英語科におけるメタ文法授業のアクションリサーチ」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第52巻, pp.337-366
- 秋田喜代美・斎藤兆史・藤江康彦・藤森千尋・柗木貴之・王林鋒・

- 三瓶ゆき・大井和彦(2015)「メタ文法能力育成をめざしたカリキュラム開発—実践と教材開発を通じたメタ文法カリキュラムの展望」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第54巻, pp.355-388
- アロット, N. (著), 今井邦彦(監訳)(2014)『語用論キータム事典』開拓社
- 池上嘉彦(1995)『《英文法》を考える—〈文法〉と〈コミュニケーション〉の間』筑摩書房
- 石原紀子(編著), コーエン, A. D. (著)(2015)『多文化理解の語学教育—語用論的指導への招待』研究社
- 今井邦彦(2015)『言語理論としての語用論』開拓社
- 馬本勉(1995)「語用論的アプローチによる語彙指導—映画教材の可能性」『中国地区英語教育学会研究紀要』第25号, pp.189-195
- 川崎沙織・柗木貴之(2016)「映画を用いた大学英语授業—語用論的な力の育成をめざして—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第55巻, pp.395-406
- 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則(2009)『改訂版 英語教育用語辞典』大修館書店
- 大学英语教育学会(監修), 森住衛・神保尚武・岡田伸夫・寺内一(編)(2010)『英語教育学大系 第1巻 大学英语教育学 その方向性と諸分野』大修館書店
- 田崎清忠(編集責任)(1995)『現代英語教授法総覧』大修館書店
- 中島信男(編)(2012)『朝倉日英対照言語学シリーズ7 語用論』朝倉書店
- ニコル, A. (著), 神谷久美子, カネル, K. R. (編著)(2007)『The Truman Show—映画総合教材『トゥルーマン・ショー』』松柏社
- 柗木貴之・久世恭子(2014)「英語絵本を用いた言語横断的授業—ことばへの気づきと解釈する力を育むために」『言語情報科学』第12号, pp.109-125
- 松崎正治(1993)「語用論意識を育てる教材の開発—含意のばあい」『鳥取大学教育学部研究報告 教育科学』第35巻第1号, pp.21-42
- 町田守弘(2015)「映画を使った授業実践—学習者の興味・関心喚起のために」濱本純逸(監修), 奥泉香(編)『メディア・リテラシーの教育—理論と実践の歩み』淡水社, pp.239-260
- 三原健一・高見健一(編著)(2013)『日英対照 英語学の基礎』くろしお出版
- 文部科学省(2009)『高等学校学習指導要領』文部科学省
- 文部科学省(2010a)『高等学校学習指導要領解説 国語編』教育出版
- 文部科学省(2010b)『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』開隆堂出版
- リーチ, J.N. (著), 池上嘉彦(訳)(1987)『語用論』紀伊国屋書店
- Austin, J.L. (1962). *How to do things with words*. Oxford: Clarendon Press. (坂本百大(訳)(1978)『言語と行為』大修館書店)
- Grice, P. (1975). Logic and conversation. In Cole, P & Morgan, J (Eds.). *Syntax and Semantics 3: Speech acts*. (pp.41-58). New York: Academic Press. Reprinted in Grice, P. (1989). *Studies in the way of words*. Cambridge, Mass: Harvard University Press: 22-40. (清塚邦彦(訳)(1998)『論理と会話』『論理と会話』勁草書房, pp.31-59)

(指導教員 斎藤兆史教授)